

題 目 部活動における中高生の内発的動機づけに対する褒めと批判の影響
—部員同士のコミュニケーションに着目して—

氏 名 兵藤 咲彩

指導教員 結城 雅樹

中学校と高校における部活動は、生徒の多様な学びの場として、その教育的意義が大きいことから、学校教育活動に欠かすことのできないものとなっている。そうした教育的効果の高い部活動で生徒が継続して活動を行っていくためには、生徒の動機づけを高めることが必要である。特に、内面の興味や関心によって自ら行動が引き起こされる内発的動機づけは、持続力があることから重視されている。では、どのように生徒の内発的動機づけを高めることができるのだろうか。その要因として、褒め・批判（叱りを含む）、指導者との関係性が影響を与えていることが先行研究でわかっている。そこで本研究では、(1) 先行研究で検討されていた、指導者から生徒への褒め・批判及び生徒と指導者の親和的信頼関係が、生徒の内発的動機づけとどのように関連しているか、(2) 本研究の独自の検討課題として、部員同士の褒め・批判及び部員同士の親和的信頼関係が、生徒の内発的動機づけとどのように関連しているか、について検証した。研究1では、北海道の公立高等学校1校の中学3年生122名（男性62名、女性59名、無回答1名）に質問紙調査を実施し、研究2では、全国の中学生・高校生242名（男性62名、女性107名、それ以外1名、無回答72名）に質問紙調査を実施した。その結果、研究1・2のいずれにおいても、①指導者からの褒めは、生徒と指導者の親和的信頼関係を媒介し、間接的に生徒の内発的動機づけに影響を及ぼしていること、②部員同士の褒めは、部員同士の親和的信頼関係を介在し、間接的に生徒の内発的動機づけに影響を及ぼしていること、③生徒と指導者の親和的信頼関係と部員同士の親和的信頼関係では、部員同士の親和的信頼関係の方が内発的動機づけに強い影響を与えていることが確認された。この結果から、褒めが中学生・高校生に影響を与えていること、部員同士のコミュニケーションや関係性が重要であることが示唆された。しかし一方で、批判の効果は一貫しなかったため、より詳細な検証が必要であると考えられる。